

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	伊那谷文化史資料調査研究保管事業	会計	一般会計	事業No.	830	施策順No.	61-005
		事業種別	政策・その他	予算科目	10-5-6-11-3		
政策	6 地域の自然・歴史・文化を活かし続けるまちづくり			課等名	美術博物館		
施策	61 地域資源の発見			事業期間	開始	1	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	1 伊那谷を中心とした人文分野						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		飯田下伊那地域の面積(平方キロメートル)	2262.6	2262.6	2262.6	2262.6	2262.6	
	意図	1 収集された資料は、調べられた成果が公表される						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	年度内に調査された資料の数(点)	202	120	120	100	120	100	A
	蓄積・登録された資料の総数(点)	12189	12335	12520	12640	13001	13150	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	特別展「信州飯田領主堀侯」後、出品資料の寄贈申し出が数件ある。また特別展「獅子舞」に併せて伊那谷の獅子舞の映像記録やデータ整理ができた。県内の仏像調査も各市町村からの調査依頼が多く順調に進んでいる。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	1 本事業は飯田市美術博物館において、伊那谷の人文に関する資料および情報を継続的に収集、整理、保管、研究活動を行うものである。 2 調査活動は「飯田市地域史研究事業」の一環として位置づけ、その成果を特別展や特別陳列、図録や報告書、映像等で還元できるよう努めている。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 調査研究 社寺調査8箇所・民俗調査5件・獅子舞展関連調査7件。 特に民俗調査では「飯田上飯田の民俗」をテーマに計24名が調査を開始した。 2 資料の収集 寄贈受入2件・購入0件 3 資料の修復・保管・整理 修復3点 4 出版事業 『日夏歌之介資料目録』・『遠山霜月祭(南信濃②)』・DVD「座光寺麻績神社の獅子舞」を刊行した。 5 写真・映像の収集保管 「遠山霜月祭」2箇所(木沢・和田)・「伊那谷の獅子舞」60箇所の撮影・デジタル化を行った。	1 調査の件数 2 寄贈受入・購入した資料の数 3 修復した資料の数 4 刊行した印刷物・映像の数 5 撮影・デジタル化した寄資料数	1 20件 2 2件 3 3点 4 3件 5 3件
23年度実施計画	1 調査研究 社寺調査・民俗調査・関連史料の調査。 とくに「飯田上飯田」の民俗調査を継続してまとめ、翌平成24年度前半期の報告書刊行を目指す。 2 資料の収集 資料の寄贈受入および購入 3 資料の修復・保管・整理 貴重な資料を修復する 4 出版事業 安東菊子日記ほかを刊行する 5 写真・映像の収集保管	1 調査の件数 2 寄贈受入・購入した資料の数 3 修復した資料の数 4 刊行した印刷物・映像の数 5 撮影・デジタル化した寄資料数	1 20件 2 2件 3 3点 4 2件 5 3件

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他					
一般財源		5,030	4,396	4,917		
計(A)		5,030	4,396	4,917		
正規職員所要時間						
臨時職員等所要時間						
人件費計(B)			0			
トータルコスト A+B			4,396			

4 事業に対する市民や議会の意見

地域文化に関する問い合わせが増加している。また、飯田城や城下町に対する関心が高まり、お練り祭り等の芸能、諸資料の所在地等に関する問い合わせが寄せられた。また、遠山地方との合併により遠山の文化財に関する問い合わせも増大した。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	見出される(調査研究し公表する。客観的な事実、意味や価値のあるなしを判断する)	施策の成果指標又はムトス指標	見いだされた地域資源の数(累計)
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	本事業により館蔵資料の整理・登録ができ、調査研究の成果は特別展等展示会の開催、講座等の教育普及事業に繋がった。また、民俗報告書・DVD・目録など調査研究や資料整理の成果が刊行物などとして公開できた。		
	後期に向けた課題	民俗・仏教文化・歴史以外の文化史分野について事業展開を図りたい。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	他事業とリンクさせたり、伊那民俗学研究所等の市民との協働による事業展開を図った。緊急雇用創出事業を導入した。		
	後期に向けた課題	緊急雇用創出事業が終了した後に整理作業等をどう進めるか。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	資料のデジタル化の推進。 民俗調査を伊那民俗学研究所との共同調査にすることにより調査費用を大変低く抑えた。		
	後期に向けた課題	適切なデジタル化により、コストを抑える。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	民俗・仏教文化・歴史等についての地域資源の発見は公共性が高く、市の関与は適切であったと思われる。		
	後期に向けた課題	今後も同様である。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをされましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	①主体:地域の人文分野(民俗・仏教文化・歴史等):地域資源の調査研究・収集保管・データ蓄積 ②地域資源を見出し、調査研究により記録し付加価値を与える。		
	後期に向けた課題	同様である		
全体を通じて	4年間の振り返り	資料整理はこの4年刊に順調に進んだ。 民俗報告書・DVD・目録などを多くの成果を公表できた。		
	後期に向けた課題	よりいっそう課題を明確にし、資料や情報の収集、発信をおこなっていく必要がある。 収蔵庫のスペースなどを考慮しながら、価値の高い資料を選択的に収集保管していく。大学などの研究機関とより綿密に連携する。 現在進行中の「飯田上飯田」の民俗調査について、平成24年度中に報告書刊行ができるよう事業化(予算化)を図る必要がある。→別事業化		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ある	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input checked="" type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	--	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	--